

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	先勝	元日、修正会、初詣、年賀	旧正月	かのえ
二日	木	友引	初夢、初荷、書初め、皇居一般参賀	二日	うま
三日	金	先負		三日	かのと
四日	土	仏滅		四日	ひつし
五日	日	大安	小寒 二時、初水天宮 六日年越し、官庁御用始め 取引所大発会、東京消防出初式、初亥 （八時、七草（人日の節句）） 五、六分、旧こと納め、旧針供養、初子	五日	みつのと
六日	月	赤口		六日	さる
七日	火	先勝	初薬師	七日	きのと
八日	水	友引	宵えびす、京都西本願寺御正忌報恩講、初寅	八日	いぬ
九日	木	先負	初金比羅 十日えびす、初卯	九日	ね
十日	金	仏滅	鏡開き、歳開き	十日	ひのと
十一日	土	大安		十一日	うし
十二日	日	赤口	初巳	十二日	つちのえ
十三日	月	先勝	成人の日	十三日	とら
十四日	火	友引	望七時、十四日年越し、大阪四天王寺修正会	十四日	うま
十五日	水	先負	小正月、小豆がゆ	十五日	みつのと
十六日	木	仏滅	やぶいり、えんま詣	十六日	ひつし
十七日	金	大安	土用 六時、阪神淡路大震災（一九九五年）	十七日	きのと
十八日	土	赤口	初観音	十八日	ひのえ
十九日	日	先勝		十九日	いぬ
廿日	月	友引	大寒 五時、二十日正月	廿日	あ
廿一日	火	先負	初大師	廿一日	つちのえ
廿二日	水	仏滅	下弦 五時、三分	廿二日	うし
廿三日	木	大安	臘日	廿三日	かのと
廿四日	金	赤口	初愛宕、初地藏	廿四日	う
廿五日	土	先勝	法然上人御忌（ご命日・二二二年） 世界平和念仏の日、初天神、奈良山焼	廿五日	か
廿六日	日	友引	文化財防火デー	廿六日	か
廿七日	月	先負	国旗制定記念日	廿七日	う
廿八日	火	仏滅	初不動	廿八日	か
廿九日	水	先勝	朔 二時、旧元日 三六分	廿九日	か
卅日	木	友引		旧正月	か
卅一日	金	先負		二日	か

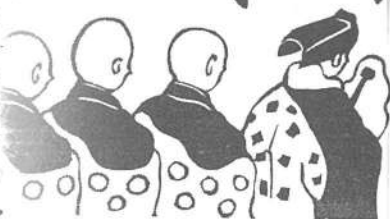
{ あいさつ }

- 初春の候
- 厳冬の候
- 寒梅新春の候



YouTube
浄土宗公式
チャンネル

大本山増上寺の御忌法要の動画（4月）を公開しています！
総大本山の御忌会にぜひ足をお運びください。（P50-54に掲載）



◆ 1月25日 御忌会
建暦2年（1212）、80歳で往生された法然上人のご命日に、「ご遺訓の「一枚起請文」を声高らかに拜読する御忌会が営まれます。もともと「御忌」は、天皇皇后のご命日でしたが、徳の高さをたたえられ、室町時代に法然上人の忌日を「御忌」と呼ぶことが許されました。
今日では1月25日のご命日法要に加え、春に盛大な法要を行うところが多くなっています。



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	仏滅		旧正月	かのと
二日	日	大安	節分、節分祭、追儺式	四日	うし
三日	月	赤口	立春 ^{二三時} 一〇分	五日	みつのと
四日	火	先勝	さつぼろ雪まつり(十二日迄)、旧七草	六日	うみつのと
五日	水	友引	●上弦 ^{一七時} 〇二分	七日	きのと
六日	木	先負	初午	八日	みきのと
七日	金	仏滅	北方領土の日	九日	うま
八日	土	大安	こと始め、針供養	十日	ひのと
九日	日	赤口		十一日	ひつし
十日	月	先勝		十二日	さる
十一日	火	友引	●建国記念の日 ^{五時}	十三日	つちのと
十二日	水	先負	○望 ^{二二時} 五三分、旧小正月	十四日	と
十三日	木	仏滅		十五日	かのと
十四日	金	大安		十六日	いぬ
十五日	土	赤口	涅槃会、横手かまくら、岡山西大寺裸祭	十七日	みつのと
十六日	日	先勝		十八日	かのと
十七日	月	友引	八戸えんぶり(二十日迄)、旧二十日正月	十九日	うま
十八日	火	先負	雨水 ^{一九時} 〇七分	二十日	つちのと
十九日	水	仏滅		廿一日	うま
廿日	木	大安		廿二日	つちのと
廿一日	金	赤口	●下弦 ^{二時} 三三分	廿三日	かのと
廿二日	土	先勝		廿四日	さる
廿三日	日	友引	●天皇御誕生日	廿五日	かのと
廿四日	月	先負	休日、奈良麻生寺奥院御尊天法要・法然上人像公開	廿六日	と
廿五日	火	仏滅	世界平和念仏の日	廿七日	みつのと
廿六日	水	大安		廿八日	いぬ
廿七日	木	赤口		廿九日	みつのと
廿八日	金	友引	●朔 ^{九時} 四五分、鎮西忌(浄土宗第二祖聖光上人ご命日)	朔二日	かのと

令和六年
歌会始御歌
(和)

◆御製...をちこちの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心のみぬ
◆皇后陛下御歌...広島をはじめ訪ひて平和への深き念ひを吾子は綴れり

令和七年
歌会始御歌
(夢)

{ あいさつ }

- 立春の候
- 残寒の候
- 三寒四温と
- 言われるこの季節



約2500年前、お釈迦さまが沙羅双樹の下、80歳で生涯を閉じられた(入滅された)と伝えられる日です。涅槃とは「煩惱の炎が消えた状態」を意味することから、完全に煩惱から離れ、覚悟に入られたお釈迦さまをたたえ、その命日と法要を涅槃会と言うようになりました。宗派を問わず各寺院では涅槃会を掲げ報恩追慕の法要を勤めます。

◆ 2月15日 涅槃会



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	先負	春の全国大災予防運動（七日迄、二日灸）	旧二月二日	みづちのと
二日	日	仏滅	旧初午	三日	かのえ
三日	月	大安	ひな祭（上巳の節句）、耳の日	四日	かのと
四日	火	赤口		五日	みつと
五日	水	先勝	啓蟄 一七時 〇七分	六日	さる
六日	木	友引		七日	きぬ
七日	金	先負	上弦 一時、清防記念日旧こと始め、旧針供養 三二分	八日	きのと
八日	土	仏滅	国際女性デー	九日	ひのえ
九日	日	大安		十日	ね
十日	月	赤口		十一日	ひのと
十一日	火	先勝	東日本大震災（二〇一一年）	十二日	うし
十二日	水	友引	奈良東大寺二月堂お水取り	十三日	とら
十三日	木	先負	春日祭	十四日	つちのと
十四日	金	仏滅	一五時、二の午、善導忌 五五分（浄土宗高祖善導大師ご命日）	十五日	かか
十五日	土	大安	京都清凉寺お松明式	十六日	たつ
十六日	日	赤口		十七日	かのと
十七日	月	先勝	彼岸入り	十八日	きのと
十八日	火	友引		十九日	ひのえ
十九日	水	先負		廿日	いぬ
廿日	木	仏滅	春分の日、春分一八時、社日彼岸中白	廿一日	ね
廿一日	金	大安		廿二日	つちのと
廿二日	土	赤口	下弦 二〇時、二九分、NHK放送記念日	廿三日	うし
廿三日	日	先勝	世界気象デー 彼岸結願	廿四日	つちのと
廿四日	月	友引		廿五日	かのと
廿五日	火	先負	世界平和念仏の日、電気記念日	廿六日	みつと
廿六日	水	仏滅	旧三の午	廿七日	み
廿七日	木	大安	表千家利休忌	廿八日	うま
廿八日	金	赤口	裏千家利休忌	廿九日	きのと
廿九日	土	先負	朔一九時、朔五八分	旧三月三日	ひのえ
卅日	日	仏滅		二日	と
卅一日	月	大安	旧ひな祭	三日	つちのと

{ あいさつ }

- 早春の候
- 春分の候
- 桃の花香る頃



◆ 彼岸会

春分と秋分をお中日とした一週間を彼岸といえます。
〔六波羅蜜（六つの正しい行い）を実践し、煩惱の川を渡り、極楽浄土へ生まれかわりたいと願う信仰実践の期間とされています。〕
中国の善導大師は、太陽が真東から出て真西に沈む春分・秋分の日には、「日想観」を行い、その日没の場所を極楽浄土と思つてあこがれの心を起こすべきである、とお説きになっています。

3月

弥生
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	火	赤口	学年始め	旧三月四日	かのえ
二日	水	先勝		五日	かのと
三日	木	友引		六日	みつのと
四日	金	先負	清明二二時 四九分	七日	みつのと
五日	土	仏滅	●上弦 一一時 一五分	八日	きのえ
六日	日	大安	六蔵一心寺界隈下寺町なにわ人形芝居フェスティバル	九日	きのと
七日	月	赤口	法然上人お誕生日(二二三年、世界保健デー)	十日	ひのえ
八日	火	先勝	灌仏会(花まつり)	十一日	ひのと
九日	水	友引		十二日	ひつし
十日	木	先負		十三日	つちのえ
十一日	金	仏滅	メイトル法公布記念日	十四日	さる
十二日	土	大安	世界宇宙飛行の日	十五日	つちのと
十三日	日	赤口	●望九時 二二分、京都法輪寺十三まいり	十六日	かぬ
十四日	月	先勝	兼本地震(二〇一六年)奈良麻生寺聖衆来迎練供養会式	十七日	かのと
十五日	火	友引		十八日	みつのと
十六日	水	先負		十九日	うまし
十七日	木	仏滅	土用 三時 一六分	廿日	つちのえ
十八日	金	大安	発明の日	廿一日	ひのえ
十九日	土	赤口		廿二日	み
廿日	日	先勝	穀雨 四時、岡山誕生寿会式法要(法然上人ご命日) 五六分 親(追慰会)郵政記念日、郵便週間	廿三日	つちのと
廿一日	月	友引	●下弦 一〇時 三六分	廿四日	ひつし
廿二日	火	先負		廿五日	かのえ
廿三日	水	仏滅		廿六日	さる
廿四日	木	大安		廿七日	つちのと
廿五日	金	赤口	世界平和念仏の日	廿八日	み
廿六日	土	先勝		廿九日	かぬ
廿七日	日	友引	和歌山道成寺鐘供養	卅日	かのと
廿八日	月	仏滅	朔 四時 三一分	旧四月一日	み
廿九日	火	大安	●昭和の日	二日	つちのえ
卅日	水	赤口		三日	つちのと

{ あいさつ }

- 春暖の候
- 晩春の候
- 桜花爛漫の候



全日本
日教会
全仏 (WEBサイト)

全国各地で開催されている花まつりを紹介しています。様々な法要や催しを楽しんでみてはいかがでしょうか。



◆ 4月8日 灌仏会(花まつり)
お釈迦さまが、ルンビニーの花園でお生まれになった日です。生まれてすぐに、7歩進んで右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と言われ、龍王が甘露の雨を降らせて祝福したと伝えられています。
この故事になぞらえて、色とりどりの花を美しく飾った花御堂に、天と地を指す誕生仏をまつり、甘茶をかけて誕生を祝う行事が行なわれています。

4月

うつき
{ 卯月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	木	先勝	八十八夜、メーデー(労働祭)	旧四月	かのえ
二日	金	友引		五日	ひつし
三日	土	先負	●憲法記念日 <small>博多どんたく 浜松まつり(五日迄)</small>	六日	みつのがえ
四日	日	仏滅	●みどりの日、●上弦二二時 <small>五二分</small>	七日	みつのと
五日	月	大安	●こどもの日、立夏 <small>一四時端午の節句 五七分 旧灌仏</small>	八日	きのえ
六日	火	赤口	休日	九日	さとの
七日	水	先勝	世界赤十字デー	十日	ひのえ
八日	木	友引		十一日	うし
九日	金	先負		十二日	つちのえ
十日	土	仏滅	愛鳥週間(十六日迄)	十三日	つちのと
十一日	日	大安	母の日、長良川鶴鯛開き	十四日	かのえ
十二日	月	赤口	看護の日、海上保安の日	十五日	かのと
十三日	火	先勝	○望一時 五六分	十六日	みつのがえ
十四日	水	友引		十七日	みつのと
十五日	木	先負	沖繩本土復帰記念日、京都葵祭、東京神田祭	十八日	さる
十六日	金	仏滅		十九日	きのと
十七日	土	大安		廿日	ひのえ
十八日	日	赤口		廿一日	ひのと
十九日	月	先勝	奈良唐招提寺うちわまき	廿二日	つちのえ
廿一日	火	友引	●下弦二〇時 五九分	廿三日	つちのと
廿二日	水	先負	小満 三時 五五分	廿四日	かのえ
廿三日	木	仏滅		廿五日	かのと
廿四日	金	大安		廿六日	みつのがえ
廿五日	日	先勝	世界平和念仏の日	廿七日	みつのと
廿六日	月	友引		廿八日	きのえ
廿七日	火	大安	朔 一二時 〇二分	廿九日	ひつし
廿八日	水	赤口		旧五月	ひのえ
廿九日	木	先勝		朔日	さる
卅日	金	友引	消費者の日	二日	ひのと
卅一日	土	先負	世界禁煙デー、旧端午	三日	つちのえ

【あいさつ】

- 立夏の候
- 軽暑の候
- 薫風の候
- 若葉の頃となりました



◆ 帰敬式・授戒会・五重相伝
 帰敬式とは、仏さま(仏)、仏さまの教え(法)、仏教を信じる人たち(僧)に帰依して仏教徒となることを表明する儀式のことです。授戒会は、仏教徒として守るべき約束ごと(戒)を授け、戒に従って生きていくことを誓う儀式をさします。五重相伝では、浄土宗の教えをいただくものとして、法然上人の教えを五つの段階に分け、通常5日間をかけて学ぶことで念仏信仰を深めていきます。

5月

さつき
【皐月】
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	日	仏滅	氣象記念日、写真の日 電波の日、相模川他點解禁	旧五月六日	かのと うし
二日	月	大安	横浜開港記念日	七日	みつのと とら
三日	火	赤口	上弦 ^{二時} 、測量の日 四一分	八日	う みつのと
四日	水	先勝	歯と口の健康週間(十日迄)	九日	きのえ たつ
五日	木	友引	芒種 ^{一八時} 、世界環境デー 五七分	十日	きのと み
六日	金	先負		十一日	ひのえ うま
七日	土	仏滅		十二日	ひのと ひつし
八日	日	大安		十三日	さる つちのえ
九日	月	赤口		十四日	つちのと とり
十日	火	先勝	時の記念日	十五日	かのえ いぬ
十一日	水	友引	望 ^{一六時} 、入梅 ^{〇時} 四四分、二四分	十六日	かのと み
十二日	木	先負		十七日	みつのと ね
十三日	金	仏滅		十八日	みつのと うし
十四日	土	大安	柏崎えんま市(十六日迄)	十九日	きのえ とら
十五日	日	赤口	父の日、東京山王祭	廿日	きのと う
十六日	月	先勝		廿一日	ひのえ たつ
十七日	火	友引		廿二日	ひのと み
十八日	水	先負		廿三日	つちのえ うま
十九日	木	仏滅	下弦 ^{四時} 一九分	廿四日	つちのと ひつし
廿日	金	大安	京都鞍馬寺竹伐り会式	廿五日	かのえ さる
廿一日	土	赤口	夏至 ^{一一時} 四二分	廿六日	かのと とり
廿二日	日	先勝		廿七日	みつのと いぬ
廿三日	月	友引	沖繩慰霊の日	廿八日	みつのと み
廿四日	火	先負		廿九日	きのえ ね
廿五日	水	赤口	朔 ^{一九時} 、世界平和念仏の日 三二分	旧六月朔日	きのと うし
廿六日	木	先勝		二日	ひのえ とら
廿七日	金	友引		三日	ひのと う
廿八日	土	先負	貿易記念日	四日	つちのえ たつ
廿九日	日	仏滅		五日	つちのと み
卅日	月	大安	大はらへ、夏越祭	六日	かのえ うま

{ あいさつ }

- 入梅の候
 - 初夏の候
 - 梅雨の候
- 紫陽花の花も美しく



仏 式 結 婚 式
(WEBサイト)

総本山知恩院をはじめ、多くの寺院で挙式を行えます。阿弥陀さまとご先祖さまに見守られながらお誓いします。



◆ 仏式結婚

浄土宗では、夫婦の誓いとともに仏さまへ花を供養する「行華」を行います。これは、お釈迦さまの前世の物語に由来しています。青年・雲童子は仏さまに捧げたいと花を探していましたが、国王が国中の花を探った後で見つかりません。そのとき7本の花を持つ少女・賢者に出会います。2人は花を分け合い、仏さまに捧げました。後に2人は夫婦となり、幸せな人生を送りました。

6月

みなつき

{ 水無月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	火	赤口	半夏生 <small>二二時、全国各地海山開き、富士山開き</small> 一三分 国民安全の日、全国安全週間	旧六月	かのと ひつし
二日	水	先勝		八日	さる みつのと
三日	木	友引	上弦 <small>四時</small> 三〇分	九日	とり みつのと
四日	金	先負	米国独立記念日	十日	きのえ いぬ
五日	土	仏滅		十一日	きのと み
六日	日	大安	記主忌(浄土宗第三祖良忠上人ご命日)	十二日	ひのえ ね
七日	月	赤口	小暑 <small>五時</small> 〇五分、七夕の節句	十三日	ひのと うし
八日	火	先勝		十四日	つちのえ とら
九日	水	友引	浅草ほおずき市(十日迄)	十五日	つちのと う
十日	木	先負		十六日	かのえ たつ
十一日	金	仏滅	望 <small>五時</small> 三七分	十七日	かのと み
十二日	土	大安		十八日	みつのと うま
十三日	日	赤口	迎え火	十九日	みつし ひつし
十四日	月	先勝	お盆	廿日	きのえ さる
十五日	火	友引	送り火(十六日に行う地方もあり)	廿一日	きのと とり
十六日	水	先負	やぶいり、えんま詣	廿二日	ひのえ いぬ
十七日	木	仏滅	京都祇園祭(山鉾巡行)	廿三日	ひのと み
十八日	金	大安	下弦 <small>九時</small> 三八分	廿四日	つちのえ ね
十九日	土	赤口	土用 <small>一九時</small> 〇五分、土用の丑	廿五日	つちのと うし
廿日	日	先勝		廿六日	かのえ とら
廿一日	月	友引	海の日	廿七日	かのと う
廿二日	火	先負	大暑 <small>二二時</small> 二九分	廿八日	みつのと たつ
廿三日	水	仏滅		廿九日	みつのと み
廿四日	木	大安	地蔵盆	卅日	きのえ うま
廿五日	金	赤口	朔 <small>四時</small> 一分、世界平和念仏の日、大阪天神祭	旧四六 月朔日	きのと さ
廿六日	土	先勝	香川法然寺虫干会(二十七日迄)	二日	ひのえ さる
廿七日	日	友引		三日	ひのと とり
廿八日	月	先負		四日	つちのえ いぬ
廿九日	火	仏滅		五日	つちのと み
卅日	水	大安		六日	かのえ ね
卅一日	木	赤口	土用の丑、芦ノ湖湖水祭	七日	かのと うし

{ あいさつ }

- 仲夏の候
- 酷暑の候
- 盛夏の候
- 暑さ厳しいおりから



◆ 施餓鬼会
 「救抜焰口餓鬼陀羅尼經」に、お釈迦さまの弟子の阿難尊者が、餓鬼から「3日後に死に、餓鬼の世界に生まれる」と言われ、お釈迦さまから「助かりたいなら餓鬼に施しと供養をしなさい」と供養の作法を授かったと説かれており、これにもとづいてい
 ます。
 次第に先祖供養の意味も付加されて今日に至っています。

7月

{ 文月 }
 (大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	金	先勝	上弦 二一時、水の週間（七日迄）、八朔、無事火の四一分、国まつり、弘前ねぶた祭（七日迄） 青森ねぶた祭（七日迄） 宮城西方寺定数如来夏まつり	旧閏六月八日	みつのとら
二日	土	友引	秋田竿燈まつり	九日	みつのとら
三日	日	先負		十日	きのと
四日	月	仏滅		十一日	きのと
五日	火	大安		十二日	うま
六日	水	赤口	広島原爆の日、仙台七夕（八日迄）	十三日	ひのと
七日	木	先勝	立秋 一四時、鼻の日 五分	十四日	つちのえ
八日	金	友引		十五日	つちのえ
九日	土	先負	望 一六時、長崎原爆の日 五五分 宝塚中山寺星下り	十六日	かのと
十日	日	仏滅		十七日	かのと
十一日	月	大安	山の日	十八日	みつのと
十二日	火	赤口		十九日	うし
十三日	水	先勝	迎え火	廿一日	きのと
十四日	木	友引	送り火（十六日に行う地方もあり） 戦没者追悼・平和祈念の日	廿二日	ひのと
十五日	金	先負		廿三日	み
十六日	土	仏滅	下弦 一四時、京都五山送り火 二分 箱根強羅大文字焼き	廿四日	つちのえ
十七日	日	大安		廿五日	つちのと
十八日	月	赤口		廿六日	かのと
十九日	火	先勝		廿七日	かのと
廿一日	水	友引		廿八日	みつのと
廿二日	木	先負		廿九日	みつのと
廿三日	金	仏滅		朔 旧七月一日	きのと
廿四日	土	先勝	朔 一五時、処暑 五時 七分 三四分	二日	きのと
廿五日	日	友引	京都地藏盆	三日	ひのと
廿六日	月	先負	世界平和念仏の日	四日	とら
廿七日	火	仏滅		五日	う
廿八日	水	大安		六日	つちのえ
廿九日	木	赤口		七日	つちのえ
卅日	金	先勝	文化財保護法施行記念日、旧七夕	八日	かのと
卅一日	土	友引	京都念仏寺千灯供養（三十一日迄）	九日	かのと
卅二日	日	先負	上弦 一五時、二百十日 五分		さる

【あいさつ】

- 晩夏の候
- 残暑の候
- 降るような蟬しぐれ



◆ 盂蘭盆会

「ウランバナ」の音訳で、お釈迦さまの弟子の目連尊者が、お釈迦さまの教えに従い、餓鬼道に落ちた亡き母を救ったとかかれている「盂蘭盆経」による行事です。日本では、祖先崇拜と結びつき全国的に広がっています。お盆には精霊棚を飾ってご先祖をお迎えし、和尚さまに回向していただき、菩提寺へ行き、お墓参りをして、ご先祖を心からご供養しましょう。

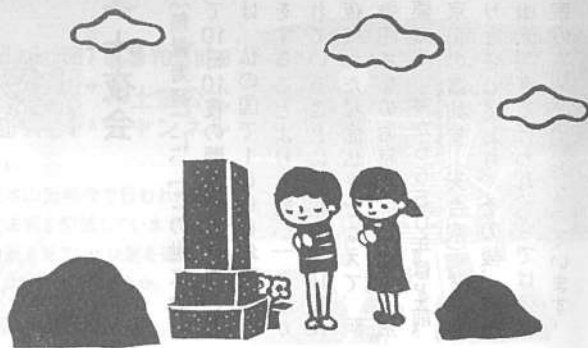
8月

はつき
【葉月】
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	仏滅	防災の日、関東大震災（一九二三年）	旧七月十日	みつと
二日	火	大安		十一日	きぬえ
三日	水	赤口		十二日	あきのと
四日	木	先勝		十三日	ひのえ
五日	金	友引	滋賀立木観音千日会	十四日	うし
六日	土	先負	旧盆	十五日	つちのえ
七日	日	仏滅	白露一七時五分	十六日	つちのと
八日	月	大安	望三時〇九分	十七日	かのえ
九日	火	赤口	救急の日、重陽の節句	十八日	かのと
十日	水	先勝	二百二十日	十九日	みつと
十一日	木	友引		廿日	みつと
十二日	金	先負	水路記念日	廿一日	きぬえ
十三日	土	仏滅	世界の法の日	廿二日	きぬえ
十四日	日	大安	下弦一九時三十分	廿三日	ひのえ
十五日	月	赤口	敬老の日、旧地藏盆	廿四日	ひのと
十六日	火	先勝		廿五日	つちのえ
十七日	水	友引		廿六日	つちのと
十八日	木	先負		廿七日	かのえ
十九日	金	仏滅	子規忌	廿八日	かのと
廿一日	土	大安	空の日、動物愛護週間（二十六日迄） 彼岸入り	廿九日	みつと
廿二日	月	友引	朔四時、旧八朔	旧八月朔日	みつと
廿三日	火	先負	秋分の日、秋分三時一分、二分灸彼岸中日	二日	きつと
廿四日	水	仏滅	結核予防週間（三十日迄）	三日	ひのえ
廿五日	木	大安	世界平和念仏の日	四日	ひのと
廿六日	金	赤口	社日	五日	つちのえ
廿七日	土	先勝	彼岸結願	六日	つちのと
廿八日	日	友引		七日	かのえ
廿九日	月	先負		八日	かのと
卅日	火	仏滅	上弦八時五四分	九日	みつと

【あいさつ】

- 初秋の候
- 秋分の候
- 秋涼の候
- 朝夕日毎に涼しくなり



◆ お墓参り

- ① お墓に着いたら墓石の周囲を掃き清めます。水鉢、花立て、線香台、そして墓石をきれいに洗います。
- ② 墓石に打ち水をして、水を入れた花立てに花を、お供物は半紙などを敷いて供えます。
- ③ お参りする方は順にお線香をあげ、合掌し十遍のお念仏をとなえてお参りします。
- ④ 花以外のお供物はお参りがすんだら持ち帰りましょう。

9月

ながつき

{ 長月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	大安	共同募金、法の日 全国労働衛生週間（七日迄）	旧八月 日	うみつのと
二日	木	赤口		十一日	きのと
三日	金	先勝		十二日	みきのと
四日	土	友引		十三日	ひのえ
五日	日	先負		十四日	うま
六日	月	仏滅	十五夜	十五日	つちのえ
七日	火	大安	望 一二時 四八分	十六日	つちのと
八日	水	赤口	寒露 九時 四一分	十七日	かのえ
九日	木	先勝	亥の子餅	十八日	かのと
十日	金	友引		十九日	みつと
十一日	土	先負		廿日	ね
十二日	日	仏滅	芭蕉忌	廿一日	うし
十三日	月	大安	スポーツの日	廿二日	きのと
十四日	火	赤口	下弦 三時 一分	廿三日	う
十五日	水	先勝	北海道地区一部で七五三	廿四日	み
十六日	木	友引		廿五日	つちのえ
十七日	金	先負		廿六日	つちのと
十八日	土	仏滅		廿七日	かのと
十九日	日	大安	日本橋べつたら市	廿八日	かのと
廿一日	月	赤口	土用 二二時 二分	廿九日	みつと
廿二日	火	先負	朔 二二時 五分	旧九月 日	みつと
廿三日	水	仏滅	京都時代祭	二日	きのと
廿四日	木	大安	霜降 一二時 五分	三日	きのと
廿五日	金	赤口	国連の日	四日	うし
廿六日	土	先勝	世界平和念仏の日	五日	ひのと
廿七日	日	友引	原子力の日	六日	つちのえ
廿八日	月	先負	読書週間（十一月九日迄）	七日	つちのと
廿九日	火	仏滅		八日	かのえ
卅日	水	大安	旧重陽	九日	かのと
卅一日	木	赤口	上弦 一時 二分	十日	みつと
卅二日	金	先勝		十一日	みつと

{ あいさつ }

- 仲秋の候
- 霜降の候
- 紅葉の候
- 秋色日毎に深まり



YouTube
浄土宗公式
チャンネル

大本山光明寺で行われたお十夜法要を配信しています。この動画を見て、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



◆ 十夜会

「無量寿経」に、「この世において10日10夜の間善行を行うことは、仏の国で1000年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることに由来し、10日10夜にわたり念仏をとなえて、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要です。今から550年ほど前、京都の真如堂（天台宗）が始まりとされており、その後、大本山光明寺で行われ、今では浄土宗の大切な法要となっています。

10月

かんなづき
{ 神無月 }
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	友引	奈良當麻寺奥院綴織當麻曼陀羅特別公開(十五日迄) 計量記念日、米穀年度始め、灯台記念日、自衛隊記念日	旧九月 十二日	きのえ いぬ
二日	日	先負	唐津くんち(四日迄)、十三夜	十三日	きのと み
三日	月	仏滅	文化の日、栃木福正寺西方の踊り念仏	十四日	ひのえ ね
四日	火	大安		十五日	ひのと うし
五日	水	赤口	望 <small>二二時</small> 一 <small>一九分</small>	十六日	つちのえ とら
六日	木	先勝	立冬 <small>一三時</small> 〇 <small>四分</small>	十七日	つちのと う
七日	金	友引		十八日	かのえ たつ
八日	土	先負	世界都市計画の日、ふいご祭	十九日	かのと み
九日	日	仏滅	秋の全国火災予防運動(十五日迄) 太陽暦採用記念日	廿日	みつのえ うま
十日	月	大安		廿一日	みつのと ひつし
十一日	火	赤口	世界平和記念日	廿二日	きのえ さる
十二日	水	先勝	下弦 <small>一四時</small> 、一 <small>の酉</small> 二 <small>八分</small>	廿三日	きのと とり
十三日	木	友引		廿四日	ひのえ いぬ
十四日	金	先負		廿五日	ひのと る
十五日	土	仏滅	七五三茨城當麻寺十六夜尊大祭聖阿闍 <small>十六日迄</small>	廿六日	つちのえ ね
十六日	日	大安		廿七日	つちのと うし
十七日	月	赤口		廿八日	かのえ とら
十八日	火	先勝		廿九日	かのと う
十九日	水	友引	一茶忌	卅日	みつのえ たつ
廿一日	木	仏滅	朔 <small>一五時</small> 四 <small>七分</small>	朔十日	みつのと み
廿二日	土	赤口	京都東本願寺報恩講 小雪 <small>一〇時</small> 三 <small>六分</small>	二日	きのえ うま
廿三日	日	先勝	勤労感謝の日	三日	きのと ひつし
廿四日	月	友引	休日、二 <small>の酉</small>	四日	ひのえ さる
廿五日	火	先負	世界平和念仏の日	五日	ひのと とり
廿六日	水	仏滅	旧亥の子餅、炉開き	六日	つちのえ いぬ
廿七日	木	大安		七日	つちのと る
廿八日	金	赤口	上弦 <small>一五時</small> 五 <small>九分</small>	八日	かのえ ね
廿九日	土	先勝	とおかんや	九日	かのと うし
卅日	日	友引		十日	みつのえ とら
				十一日	みつのと う

{ あいさつ }

- 立冬の候
- 向寒のみぎり
- 菊花の候
- 落葉舞い散る季節



子どもの
成長儀礼
(WEBサイト)

お寺での成長祝いは、仏縁を結ぶことにもつながります。大本山善光寺大本願では、七五三のほか十三参りの祈願も行ってあります。



七五三

一般的には11月15日に、三歳、五歳、七歳の子どもに行う成長を祝う儀礼です。江戸時代から行われ始め、その由来は、三歳は髪置、五歳は袴着、七歳は帯解とされ、髪型や服装を変えることによって、子どもの成長を祝い、神仏に感謝し祈りを捧げる機会となっております。参拝や記念撮影に用いられる「千歳飴」も、健やかな成長と長寿の願いを込めたものです。

11月

しもつき
{ 霜月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	先負	映画の日	旧十二月	きのえ
二日	火	仏滅		十三日	みのと
三日	水	大安	人権週間(十日迄)	十四日	ひのえ
四日	木	赤口		十五日	うま
五日	金	先勝	望八時、納めの水天宮 一四分	十六日	つちのえ
六日	土	友引		十七日	つちのと
七日	日	先負	大雪 六時 五分	十八日	かのえ
八日	月	仏滅	成道会、こと納め、針供養、納めの薬師 皇后御誕生日、鳴滝了徳寺大根焚き 旧えびす講、旧誓文弘	十九日	かのと
九日	火	大安	納めの金比羅	廿日	みつのえ
十日	水	赤口		廿一日	みつのと
十一日	木	先勝		廿二日	きのえ
十二日	金	友引	朔一〇時 四三分	廿三日	う
十三日	土	先負		廿四日	きのと
十四日	日	仏滅		廿五日	ひのと
十五日	月	大安	年賀郵便特別扱始め	廿六日	つちのえ
十六日	火	赤口		廿七日	つちのと
十七日	水	先勝	浅草観音歳の市(羽子板市)	廿八日	かのえ
十八日	木	友引	納めの観音	廿九日	さる
十九日	金	先負		卅日	かのと
廿日	土	大安	朔一〇時 四三分	旧十一月	みつのえ
廿一日	日	赤口	納めの大師	旧十二月	みのと
廿二日	月	先勝	冬至〇時 〇三分	三日	きのと
廿三日	火	友引		四日	うし
廿四日	水	先負	納めの地藏	五日	ひのと
廿五日	木	仏滅	世界平和念仏の日、終い天神、蕪村忌	六日	つちのえ
廿六日	金	大安	官庁御用納め	七日	つちのと
廿七日	土	赤口		八日	かのえ
廿八日	日	先勝	上弦四時 一〇分	九日	かのと
廿九日	月	友引		十日	みつのえ
卅日	火	先負	取引所納会	十一日	つちのと
卅一日	水	仏滅	大はらへ、除夜年越し、男鹿なまはげ	十二日	きのえ

{ あいさつ }

- 初冬の候
- 冬至の候
- 師走の候
- 年内余日少なくなり



◆ 成道会

人間として生まれ、悩み続けられたお釈迦さまが「おさとり」を開かれた日です。
人の世が苦に満ちていることを見抜き、出家し、肉体を痛めつける苦行をしましたが、解決できないと判断し中止したのち、大きな菩提樹の下で瞑想を始め、ついに覺りを開かれ、仏陀となりました。この尊い日を記念して、各寺院では「おさとり」をたたえる法要を営みます。

12月

しわす
{ 師走 }
(大)